

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】令和 4 年 12 月 5 日(2022.12.5)

【公開番号】特開 2021-86702(P2021-86702A)  
 【公開日】令和 3 年 6 月 3 日(2021.6.3)  
 【年通号数】公開・登録公報 2021-025  
 【出願番号】特願 2019-213901(P2019-213901)  
 【国際特許分類】

H 0 1 R 13/639(2006.01)

10

H 0 1 R 13/648(2006.01)

H 0 1 R 12/71(2011.01)

【F I】

H 0 1 R 13/639 Z

H 0 1 R 13/648

H 0 1 R 12/71

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 11 月 24 日(2022.11.24)

【手続補正 1】

20

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0068

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0068】

図 12 及び図 15 を参照すると、本実施の形態によれば、第 2 コネクタ 50 の受容部 58 は、接続状態において、第 1 コネクタ 20 を部分的に受容する。受容部 58 が設けられているため、ガイド部 76 が第 1 コネクタ 20 に向かって突出していても、第 2 コネクタ 50 を、第 1 コネクタ 20 に接続できる。一方、ガイド部 76 は、第 1 嵌合部 32 への第 2 嵌合部 62 の逆挿入を防止する。より具体的には、図 18 を参照すると、第 2 嵌合部 62 を、第 1 嵌合部 32 に上下逆に挿入しようとする、ガイド部 76 の先端 768 が基板 82 と突き当たって受け止められる。従って、仮に、第 2 嵌合部 62 が上下逆にしても第 1 嵌合部 32 に挿入可能な形状を有していたとしても、第 2 コネクタ 50 は、第 1 コネクタ 20 に接続できない。また、先端 768 は、第 2 コネクタ 50 が第 1 コネクタ 20 と接触する前に基板 82 と突き当たるため、誤嵌合に起因する金属屑の発生を防止できる。

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0088

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【0088】

図 25 及び図 27 を参照すると、本実施の形態によれば、第 2 コネクタ 50 の受容部 58 は、接続状態において、第 1 コネクタ 20 A を部分的に受容する。図 28 を参照すると、第 2 嵌合部 62 を、第 1 嵌合部 32 A に上下逆に挿入しようとする、ガイド部 76 の先端 768 が第 1 コネクタ 20 A の受止部 468 A と突き当たって受け止められる。即ち、第 2 コネクタ 50 のガイド部 76 は、第 1 嵌合部 32 A への第 2 嵌合部 62 の逆挿入を防止する。また、先端 768 は、第 2 コネクタ 50 が第 1 コネクタ 20 A と接触する前に受止部 468 A と突き当たるため、誤嵌合に起因する金属屑の発生を防止できる。

50